

編集後記

本号第 18 号は本学大学院鍼灸学専攻科博士後期課程で行われた 3 つの研究が原著に掲載されています。大学院生の皆さんが鋭意努力された結果であり、本誌がその成果発表の場となったことを大変嬉しく思います。今回掲載されている 3 編は、1 つは女性トップアスリートの生理周期による体調変化を客観的にとらえコンディショニングに生かそうという試み、1 つは軽度認知障害に対する鍼治療の効果を認知機能と神経変性要因とされる β アミロイドの蓄積抑制物質（シークエスター）の変化で評価したもの、もう 1 つは精子機能に対する鍼刺激の効果を精子運動や精液成分の変化で捉えようとしたものです。スポーツ振興プロジェクトを進める本学らしい研究であり、また、少子・超高齢社会を迎えたわが国においてはいずれも切実な問題である「認知症」や「不妊」に対しての鍼灸治療の可能性を示す大変興味深い内容となっています。

また本号には、全学横断的シンポジウムの抄録（メインテーマは 2016 年度「健康と運動（スポーツ）を志向した研究」及び 2017 年度「明治研究最前線」）も掲載されています。全学横断的シンポジウムは学部学科を越えた研究協力体制を構築し本学独自の研究を上げることを目指した取り組みの 1 つです。このような取り組みの中から生まれてくる成果についても、是非、本誌を発表の場として利用していただければと思います。また、本年（平成 29 年）には保健医療学部には救急救命学科が新設されています。鍼灸・柔道整復・看護および救急救命のそれぞれの分野からも報告が寄せられ、幅広い医療系学術情報の発信源として本誌が発展していくことを願っています。

明治国際医療大学誌編集委員会

委員長 糸井マナミ